

2024年度第3四半期決算説明会 主な質疑応答（要旨）

日時 : 2025年2月12日（水）16時30分～17時30分
当社出席者 : 常務取締役 古川敏之、常務取締役 大治良高

主な質疑応答 :

【時計事業】

Q) 営業利益の減益要因について。

A) 第3四半期において、海外市場の現地通貨ベースの販売単価がやや低下したことにより、製品ミックスが改善せず、広告宣伝費など販管費の増加やコストの上昇を吸収することができなかった。また、中国を含むアジアの販売減などに伴う営業赤字も影響している。

Q) 海外市場の販売単価について。

A) 販売単価の前年同期比の伸び率は、為替除きで北米は微増、欧州はほぼ横ばいだった。第2四半期までは販売単価が想定以上に上昇したが、第3四半期はそのトレンドが緩やかなものとなった。

Q) 北米と欧州の状況について。

A) 北米と欧州の販売は想定よりも好調に推移しており、第4四半期も継続する見通し。

Q) ムーブメント販売の実績と生産調整について。

A) ムーブメントの全体市況に大きな変化はないが、大手の主要個客などが高付加価値製品へのシフトを図っているため、第3四半期はアナログクォーツムーブメントの付加価値製品が堅調に推移した。生産調整は第3四半期まで行い、2024年12月末時点の在庫は前年同期比3割減と適正水準となっている。第4四半期では、生産調整は実施しない見通し。

【工作機械事業】

Q) 受注状況と今後の受注トレンドについて。

A) 当初想定よりも受注の回復が遅れているが、一部地域では底打ちの兆しが見えつつあり、全体では緩やかな回復基調をたどるとみている。これまで受注の本格回復時期を2025年の春先とみていたが、現在は2025年の後半に状況が好転することを期待している。

以上